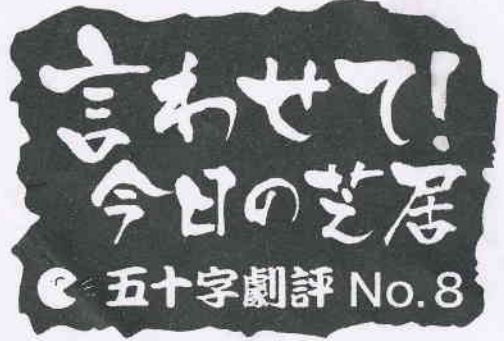


島(青年劇場)



【五〇代】

核兵器と放射能がどれだけ善良な人達を苦しませるのだということ、心の底から感じました。

(男性)

説明のような長セリフ、物足りない演技、陳腐な展開であったが、後でボディブローのように効いてくる舞台でした。

(女性)

毎日の雑事に追われて深く考えないで生活しています。静かに忘れるなど言われたように観劇した。先が混沌としている時代どう生きるか、自分で考えてます。

(女性)

【六〇代】

このお芝居を「過去」の話として見過ごすことはできない。今の日本に繋がっているから。現象は違おうが本質は同じである。過ちを繰り返そうとしている。犠牲になるのはいつも一般大衆。でも今ならまだ止められる。かろうじて民主主義が残っているから。一人ひとりに問われている。将来にどういう社会を残すのかを。悔いのない生き方をしたい。

(男性)

原爆がどれだけ心と体をムシバムのか。3・11を思い、これからのどんな影響があるかと考えると原力の恐しさを感じた。

(女性)



四十年前に観た民藝の島と比べ、人間関係の表現がストリートでわかりやすく、青年の悩む姿を焦点に力強くよみがえっていました。

(男性)

一般人が魚雷解体の仕事をしていたと初めて知りました。内容的にも楽しいとかではないのですが、なぜか2時間45分が長く感じなかつたお芝居は久しぶりででした。ラストの生きていく・生きる、前向きな姿勢に感動。続けてほしいお芝居です。

どうして長く感じなかつたのか。今だ謎です。

(女性)

あの戦争さえ、原爆投下さえなければという思いを強く深く考えさせられる例会だつた。最後の「生きていく」というメッセージが強く響いた。優れた群像劇。

(男性)

【七〇代】

被爆者の怒り、悲しみ、苦しみが伝わってきた。私たちは一度立ち止まってこの国が何処へ向かって進もうとしているのか考えなければならぬ。

(女性)

島は内容の重いテーマでしたが、金持はどんどん金持になり、貧乏人はどんどん貧乏になる、現在にピッタリ。

(男性)



編集スタッフから

様々な評価があれば、作品を多角的に捉えることが出来て、他の人の感じ方が新しい評価を誘発してくれるかもしれません。ある本に「鑑賞とは鑑賞者であるわたしたちの作品である」とありました。今日の例会はいかがでしたか。記憶が鮮明なうちに、ぜひあなたの作品を。投稿お待ちしてます!